



市民がつくるまちづくり情報誌  
**コミュニティくさつ**

2011年  
**夏号**

今こそ笑顔が必要!そして、いつまでも。夏祭り始まりました(写真:大條・事業団)



がんばろう、日本!  
**私にできるじゃ。**  
**今にできるじゃ。**

今号のイラスト

絵: 大村恵



**もくじ**

- ②③ 昭和9年室戸台風 山田小学校倒壊  
馬場實さん・加藤みよさん
- ④⑤ 再三の決壊 中ノ井川のその後  
集町 川端宗樹さん
- ⑥⑦ チャリティーレストラン Forza!!  
大倉知教さん・立花太郎さん
- ⑧⑨ ゆっくり草津街道物語⑭  
賑わいと静けさ「本陣・東海道①」
- ⑩ 俳句散歩「夏」
- ⑪ ええやん ご近所ライフ③  
わが町の自主防災隊
- ⑫ 熊谷栄三郎の徒然草津④  
「農業はどこでするもの」



予告なき災害

生かされた命、伝えていきたい。

昭和9年  
室戸台風

山田小学校  
倒壊

馬場實さん 加藤みよさん

昭和9年に西日本を襲った室戸台風は瀬田川鉄橋で列車9両を倒すなど県内でも大きな被害を及ぼしました。ここ草津では山田小学校が一瞬で倒壊し、先生1人と17人の生徒の尊い命を奪う惨事となったのです。テレビはもちろん、ラジオすら全家庭に普及していない時代、天気予報も、いや「台風」という言葉すらなかった9月21日の朝のできごとでした。情報も予告もない中、「それ」は一瞬のできごとだったのです。

この惨事を体験された馬場實さん（当時、小4）と、加藤みよさん（当時、小3）にお話をうかがいました。

いつもの朝

当時の山田小学校は現在の山田市民センターのあたりにありました。木造の平屋建てで、2つの校舎を廊下でつなぐ片仮名の「工」の形です。ここで、2年生までは男女同じ教室、3年生からは男女別の教室で学んでいました。子どもたちは紺の着物・もんぺ姿に下駄履きといったいでたちで、荷物は風呂敷に包んで登校していた時代です。

その日の朝は夜明けからの雨風がさらに強く、子どもたちは持っていた和傘を飛ばされないように、半分閉じながらの登校でした。雨風が強い以外はいつもとと同じ朝だったのです。

ひどい雨のため朝礼は職員室横の少し広い廊下で出欠のみを確認し、各自、教室に入りました。こうして授業は始まったものの、やがて窓の向こうでは、はがれた瓦や傘、木の葉などいろいろな物が飛び散りはじめ、そのうち教室のガラスが割れ、悲鳴をあげたり泣き出す子も。もう授業どころではありません。その恐ろしさから、外に逃げようとする子など異様なざわめきとなりました。

奪われた命 生かされた命

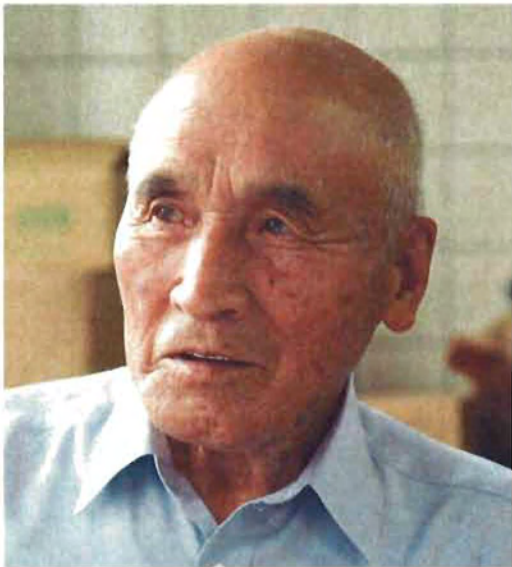
そんな中、校長先生がよろめきながら廊下を走ってきました。「外に逃げたら危ない。机の下に隠れなさい」と怒鳴っています。校舎の揺れを感じ机の下に潜り込んだその時でした。埃が舞い落ち、「バリバリッ」と大きく不気味な音をたてて目の前が真っ暗になりました。「何が何だかわからなくなった」と馬場さんは言います。次に気がついた時には倒壊した



倒壊した山田小学校。2棟あった校舎のうち、新しい方が完全に倒壊した。草津市史資料集5「ずっと KUSATSU（歴史写真集）」より

校舎の材木の上に座っている自分がいきました。馬場さんは奇跡的に怪我ひとつなかったのですが、周りを見渡すと頭の皮がむけ血を流している子や下駄箱に挟まれて動けず泣いている子など、傷ついた子とつめき声でいっぱいでした。

「そのとき」の加藤さんです。加藤さんは誰かの「危ない」という声で廊下に逃げました。出た廊下は波打っていて、加藤さんともう一人の生徒は倒れてしまいました。倒れた2人を守るよ



「犠牲となった命のためにも、私たちが伝えなければ…」と馬場さん。

うに先生が覆いかぶさりました。そして先生の背中に校舎の梁が落ちてきたのです。一番最後に救出されたのが加藤さんと先生でした。加藤さんは3日間、意識を失い、その後3カ月間の入院となったのです。そして先生は…。加藤さんと同じ病棟に入院されましたが1年後に亡くなられました。この先生が、この惨事で亡くなられた田中儀三郎先生です。希望を持ってこの9月に赴任されたばかりの新任の先生でした。加藤さんは「今でも命の恩人だと思っています」と話されます。

大切なこと…それは伝え続けること

生かされた命。「山田小学校を襲ったこの災害を風化させてはいけない。尊い犠牲があった歴史のうえに現在のわたしたちの生活がある。」

山田小学校倒壊 もう一つの物語

命の木（樺）

現在、山田小学校と山田市民センターに「命の木」として、大きく切り取られた樺の木が展示されています。

この木は風雨の吹き荒れる中を上級生が、この樺に綱をくりつけて下級生にもたせ、身を守ったと言われています。倒壊した旧山田小学校は、現在の山田市民センター、山田幼稚園の場所にあり、山田公民館（市民センターの前身）建設の際、この樺は切り取られましたが、当時のできごとと防災の大切さを後世に語り継ぐため、末永く保存されることとなりました。

今でも山田小学校では、毎月21日を慰霊の日とし、グラウンドの隅にある慰霊碑に生徒たちが花を供えます。また9月21日には殉難慰霊祭を行い、当時の被災者のお話を聞き、命の大切さと亡くなられた方の冥福を祈ります。

山田の地に残された2つの「命の木」は、時を越え私たちに自然の脅威と命の尊さを教えています。

—本誌（2004年夏号）より再掲—

とを決して忘れてはいけない」と馬場さんも加藤さんも話されます。そして、「この経験をした多くの人たちが、今も子どもたちにこのことを伝え続けています。」

災害は時人も選びません。お二人の話からは、「予告なき災害」を甘く見ず、日ごろからの備えをしておくことの大切さをあらためて感じます。そして、こうした先人の苦労や知恵を、私たちの暮らしに活かしながら皆で被害の少ないまちにしていこうと、多くの教訓を将来に伝えていくことが大切なのだと思ふ機会となりました。（大石昇）

\*この記事はお二人への取材の他に、「山田小学校百年誌（昭和51年発行）」に掲載されている体験談を一部引用または参照して編集構成しています。



子どもたちの命を守った「命の木（樺）」。山田小展示

# 大切な水だからこそ、“利水”と“治水”

## 再三の決壊 中ノ井川 のその後…

### 川端宗樹さん（集町）に聞く

まずは右をお読みください。草津市史の一節です。ここ草津は幸いにも地震や津波といった災害被害は少ないところです。でも災害はそれだけではありません。草津はこのように大雨による川の氾濫や堤防の決壊と常に向き合ってきたのです。

では今の中ノ井川はどうなっているのか。その後の中ノ井川や地元の努力を集町の川端宗樹さん<sup>むねき</sup>に聞きながら実際に案内いただきました。

朝7時。今回のテーマのせいか、この日は折しも大型の台風6号が接近中で、不気味な雨雲と風の中での取材となりました。



昭和44年6月25日一夜で91mmの豪雨があり、26日朝、北大萱の中ノ井川右岸が決壊し、水田30ヘクタールが浸水した。中ノ井川の破堤は6月11日、同13日に次いでこの年は3度目であった。さらに同河川は8月2日にも切れ、浜街道が3km冠水する事態を引き起こした。（中略）

昭和45年6月14日から16日にかけて県下で200mmの豪雨が降り、各地に被害をもたらした。16日未明、市内でも中ノ井川がはんらんし、北大萱付近では右岸の堤防が長さ10mにわたって決壊し、田畑約12ヘクタールが浸水した。またそのあとも同河川の右岸が約7mにわたって決壊し、水田約30ヘクタールが冠水している。

付近の市道も水びたしとなり、一部家屋に床下浸水し、消防署員や消防団員・地元約100名が杭打ち、土のうで食い止めた。

### 双子の川と、もう一つの川

その前に中ノ井川についての予備知識を少し。笠縫東地区を主に流れる中ノ井川は野洲川の支流として、伊勢落（栗東市）から流れてきて駒井沢で駒井川と分流します、集町でまた合流した後、葉山川と一緒に琵琶湖へと注ぎます。中ノ井川と駒井川、前号の「ゆっくり草津街道物語」のコーナーで「双子の川」として紹介しましたね。

市史にあるように再三の決壊を繰り返した中ノ井川は、その後、改修計画がたてられました。川はいくつかのまちを流れていきます。だから治水であれ、利水であれ、その地域だけの努力だけではままなりません。自然との共存はそれほど難しいもの。地元で丁寧に意見を調整しながら、市や県など行政と話し合いを重ね、みんなで川と向き合ってきました。こうした地道な取り組みで、刈原（栗東市）から大きな葉山川へ水を流すショートカットが実現し、中ノ井川への水量が調節されるなど、少しずつ改善されつつあります。今でも市や県の河川担当者も加わって災害環境特別委員会を設け、色々な対応について努力を重ねられています。

治水という意味では、もう一つ紹介したい場所が新堂中学校の前にあります。学校

「大切な水だからこそ防ぎながら  
上手に利用を」川端宗樹さん



の横を流れているのは駒井川、そこに垂直につながるもう一つの川があります。でもこの川、よく見ると水がありません。

この川は今井川といって、ここから中ノ井川までつながっています。これは中ノ井川と駒井川、どちらかの川が増水したときに、もう一方の川に水を流して水位を調整する大切な役割を担って作られました。「いざ」といっときに流れる川です。こうして流域地域だけで解決するには困難な問題については、行政の協力が欠かせないんですね。

川を使わせてもらう

日ごろ、川と向き合う地元の人々の努力についても聞いてみました。中ノ井川と駒井川、2つの川が流れる集・駒井沢・新堂は駒井三郷と呼ばれています。駒井三郷ではそれぞれ水利委員を置いて、いくつかのポイントにある門扉を開けたり閉めたりして、川の流れを調整しています。農繁期の水が必要な時は溜

めて必要な所に流す。一方、大雨では開けて琵琶湖へ水を逃がすわけですね。常に天候や情報に目を配る大変な役目となります。

また中ノ井川はいわゆる三面張りです。両岸は高さ3mぐらいですが、一部高さが低い所もあります。低くなっている所は住民の皆さんが水防訓練の折につくった土のうを積み上げて一定の高さを保っています。「高さが違うと、そこが切れるポイントになるんですよ。川の境界より民地側は個人の管理となっていますが、『こういう状態では危ない』というところ。ここもゲリラ豪雨といわれる鉄砲水が来ると地面の高さまで水位が上がリ、心配な場所の一つです。いつ来るか分からないのが災害だから、そういう所を住民で補っています。覆っている草を刈って、土のうをみんなで積むのも水害や防災・減災の意識を高めてもらうためなんです。消防訓練ではこの川から取水する訓練もしています。こうして自然の水利を利用しながら、火災にも防衛にも使わせてもらっているんです」と川端さん。

“大切な水” だからこそ 利水と治水

前述のとおり中ノ井川は野洲川の支流で、清水に近いきれいな水です。ブランド化を考えるくらい、地元ではこの水で作った米に自負を持たれています。こんなに大切な水だからこそ、これまでも川上と川下のまちで「水の取り合い」をめぐるトラブルだって幾度となくありました。上で水を

止められると下に流れない。今でも農作業が始まる時には、川上のまちに行って「今年も上手に水を流してくださいね」とお願いしているそうです。川端さんは言います。

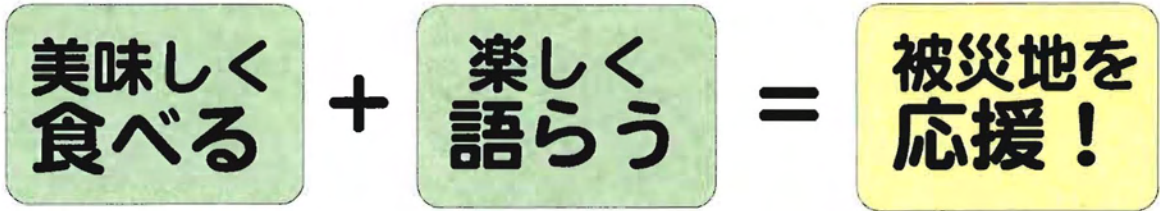
「上流から下流まで、川の流域のまちや行政がお互いに協力していかないと利水も治水も上手くいかない。この川を守りながら、そして防ぎながら上手に利用していきたいと思っています。守りながら防ぐ。水をコントロールするには大変な苦労がかかるんです。」

あの決壊から42年。“大切な水” だからこそ利水と治水、その努力は今も続いています。



大雨で決壊した中ノ井川（昭和44年6月）  
草津市史資料集5「ずっとKUSATSU（歴史写真集）」より

# チャリティーレストラン **Forza!!**



## できることを無理なく続ける

ドイツで開催された女子サッカーW杯で日本代表なでしこジャパンが優勝。彼女たちの活躍は私たち日本人に、とりわけ東日本大震災で被災された皆さんに、大きな勇気を与え復興への思いを強くしてくれました。あの3月11日の災害は、私たち一人ひとりに問いかけました「自分に何ができるのか」と。その問いかけに自分たちのできる形で活動をはじめたチャリティーレストラン「Forza!!」(フォルツァ)のユニークな取り組みを紹介します。



動きだすのは今しかない

ここは南草津駅近くのイタリアンレストラン「EXPLAINUM」イクス・プラチナム。シェフの大倉知教ちのりさんは長年に渡って国内外で身につけた料理の技を「仕事」としてだけでなく、社会に活かしたいと常々考えていました。

当初は子ども虐待防止のオレンジリボン運動への援助などを考えたりもしました。そんな時に発生したのがあの大地震です。その惨状を見聞きするうちに「動き出すのは今しかない。できることで被災地や被災者の支援をしよう!」。思いは一気に固まりました。

### 自分にできること

シェフの大倉さんが被災者にできること、それがチャリティーレストランです。お店の休業日にチャリティーレストラン「Forza!!」(フォルツァ)を開き、その売り上げを義援金として被災者に送るといふものです。「Forza!!」とはイタリア語で「頑張ろう」を意味します。「シェフの自分にできること」をずっと自問していた大倉さんは、このチャリティーレストランについて言います。「自分の店を持つた時にしかできないものと、あきらめていました。一歩が踏み出せなかったけど、今



シェフの大倉知教さん

回の震災は動かさずいられた。今はやって良かったと思っています」。光熱費や食器も含めて店の使用をOKしてくれたオーナーも「やるからには、継続してやれ」と励ましの言葉も添えてくれました。

### 思いが人をつないだ

場所と思いはあっても、シェフ一人ではレストランは成り立ちません。早速、以前にこのお店でアルバイトをしていた大学生の立花太郎さんに声をかけ、この取り組みを皆さんに知ってもらったための広報を担当してもらいました。とは言え、もちろん経費なんてありません。「コスト削減のため宣伝は専ら口コミとネットを利用し、印刷物はほとんど作ってないんですよ」と立花さん。

経費をかけないのは広報ばかりではありません



広報担当の立花太郎さん

せん。給仕を手伝ってくれるお店のスタッフも、この日だけは無償のボランティアで働いてくれます。食材は大倉さんの熱い思いに賛同してくれた出入りの業者さんが、サンプル品や商品にならない端物をできる範囲で提供してくれたり、近所の農家や家庭菜園をやっている知人友人から季節の野菜を提供してもらうことで賄われています。

どんな食材が集まるのかは、その時にならないと分からないので、メニューは集まった食材を見てから決まります。だから事前に予約を取って食材の無駄を極力なくしながらコストの削減に努めています。

普通に楽しんでもらう

大倉シェフは言います。「限られた食材なのでイタリアンにこだわらず、フランス、スペイン風などバリエーションを持たせたコースメニューを考えています。苦労もあるけど料理人



最後に「これから」を聞いてみました。「将来は、こうしたチャリティーレストランが色々な所に増えて欲しいです。できることは一人ひとり違います。トラックに乗る人は配送を手伝ってくれる。話すことが好きな人は、この活動を口コミで広めてもらう。それだけでも支援です。できることを無理なく継続する被災者の支援活動が色々な所で拡大

としてやりがいがあるんですよ。お客さんも「Forza!!」の趣旨を理解して来てくれるので、今日はどんな料理が出てくるのかと期待し、美味しく食べ、楽しく語らってくれています。普通に食事を楽しんでくれることが被災者への支援につながっているんです」。大倉さんは続けます。「義援金の募集だけでは、出してくれる人も2回目、3回目と長く継続することは難しいです。できることを無理なく長く継続していきたい。被災地に行きたくても行けない人だっています。ここ滋賀にいなながら、できる方法で支援することは、この震災を風化させないことにもつながると信じています」と。

できることは一人ひとり違う

していけばいいですね」。

大倉さんも立花さんも語り口は静かですが、その固く熱い心の内をたっぷり感じ取ることができました。大和なでしこだけでなく、大和男子も草津から被災者を温かく支援しています。「Forza!!」の賑わいと被災地の一日も早い復興を願いつつ、お二人の話に感動してお店を後にしました。  
Forza!!  
(橋詰辰夫)



東日本大震災復興支援企画

チャリティーレストラン 「Forza!!」

(原則、毎月第4火曜日)

草津市野路1-8-18 e.e.Building 12F  
(JR南草津駅から徒歩約3分)

来店予約、食材提供の申し出などは  
下記またはwebサイトまで

電話 080-3026-5313 (大倉さん)  
メール forza.0311.ookura@gmail.com  
URL http://forza0311.web.fc2.com/

# 第14回 賑わいと静けさ ～本陣・東海道①～

# ゆっくり草津 街道物語

今回の街道物語は、ここ宿場まち草津で繰り返された人と人との縁を、今の時代に取り戻したいと名づけた「集り処 縁」を出発します。明治30年に創業された栗太銀行本店として、その後はスーパーとして人々の暮らしを支えたこの地に建つ「集り処 縁」は、作品展や講座など街を歩く人々が立ち寄り心なごむ場所として今日も扉を開けています。



## 出会いと別れのまち

「存じのとおり東海道と中山道が合流・分岐する草津宿は、江戸の世から多くの人が行き交い、物資や情報が集まる場所として旅籠や商いの店が並び賑やかさを見せました。大名などが宿泊した草津宿本陣は現存する本陣の中でも最大級の規模といわれます。本陣としての役目を終えてからは郡役所、公民館となり、平成8年の大改修以降は一般公開され市民や観光客に往時の宿場町をしのばせてくれています。靴を揃え、中に一歩入るだけでお殿様・お姫様気分になれる空間です。

さらに東海道を駅に向かって少し歩くと旧草津川をくぐるトンネル「マンポ」です。文明開化が進む明治19年、人力車や馬車が通行するために隧道が掘られたアーチ型のレンガづくりでした。当時トンネルの上に掲げられた「草津川」と書かれた扁額は、すぐ横に移されています。



分岐点に建つ道標

この手前にあるのが「川源」、江戸時代から続く雑貨屋さんです。草津川堤防から通りを見下ろした昭和30年代の写真には、川源さんの隣に「かどまる」の看板。「かどまるの下駄は良い下駄」と評判だった下駄屋さんも今は昔

た下駄屋さんも今は昔



「うしてこの地を通り、日本の歴史が刻まれていたことを思うと、この草津がいかに重要な場所だったかを改めて感じます。また道標の向かいには高札場があったとされます。常時7〜8枚のお触書が貼り出され、掲示板の役目を果たしていました。

## 本陣の裏側

旧草津川は全国でも有名な天井川です。京都や奈良で寺院や仏像がつけられる際に必要となる材料や燃料として、たくさんの木材を上流の湖南アルプスから伐採したために、その花崗岩が流され堆積したとの説が有名です。高く積み上がった堤防はたびたび決壊したり、渡して大雨のために足止めを食った旅人がたくさんあった記録も残されています。そんな旧草津川も今の私たちには桜の名所。この堤防桜は、明治43年に草津小学校の深尾校長が桜の苗を植樹されたことに始まり、水やりなど根付くまでの苦労がしのばれます。

高札場横の坂道から堤防に上がります。草津川がま

の話となりました。ここが東海道と中山道の合流分岐点。見上げると「みぎ東海道 いせみち左 中山道 美のち」と彫られた道標がそのことを教えてくれます。ここから駕姫は東海道を、和宮は中山道を進んで江戸へ嫁ぎました。



ち並みより高い天井川であったことを改めて実感しながら堤防沿いを歩きます。ここから見える景色、わずか20年前で高い建物といえはお寺くらいでしたが、今はたたくさんのビルやマンションが立ち並び景色に変わっています。堤防を少し西へ歩き御除け門に下ります。御除け門は本陣の北西の角（乾の方角）に造られました。

本陣に大名などが宿泊されると、ここに番人が立ちます。そして何かあったときには、ここから御除け道を通り立木神社へと逃れるよう計られています。幸いなことに、ここを通りぬけ難を逃れるような一大事はなかったといえます。御除け道から本陣を覗くと見張り窓のある門番の部屋とお稲荷さんが見えました。1305坪という本陣の敷地の広さを垣間見ることが出来ます。

水路沿いの御除け道を歩くと、青い竹やぶとドクダミの白い花が涼しげに初夏の訪れを伝えていきます。くるりと角を曲がり本陣の敷地沿いに歩きます。



本陣裏のお除け門とお除け道

す。今は暗渠となつているこの道は小川小路と言います。本陣の堀の役目をしていた郡上川が下を流れます。またこの辺りは「抱え長屋」と呼ばれ、本陣に勤める人々が住んでいました。人

通りのある東海道のにぎやかさが、かえってこの小道の静けさを演出します。小川小路から眺める本陣は白壁と屋根の勾配が美しく、時代を経てもなおその格式を感じさせます。この七左衛門本陣は材木商も営んでいたことから木屋本陣とも呼ばれていました。

### 賑わいをみせた商店街

再び東海道に出ます。吉川芳樹園、この辺りが「脇本陣 藤屋与左衛門」跡となります。またこの建物は江戸末期のもので市の登録文化財に指定されています。名所図会には多くの客でにぎやかな脇本陣の様子とこの「ゆっくり草津街道物語・志津」で見えた『活入石』が床の間に描かれています。

現存する七左衛門本陣の他に、草津にはもう一軒の本陣がありました。今の草津宿脇本陣から玩具屋「京八」までの敷地にあった九蔵本陣です。ここには篤姫や徳川家茂が利用した記録も残されています。またこの地には明治10年、草津小学校の前身「知新小学校」が新設されました。その門が建っていたという石が路地の角に名残としてあります。

京八横の路地は本陣小路と呼ばれていました。案内してくれた石田さんからは大正座という映画館や化粧品・美容院・提灯・荒物など多くの店が並んでいたこと、そして草津に市が開かれていたことなど当時の商店街のにぎわいを懐かしい記憶として聞きました。

### たどる変遷

矢倉に向けて歩を進めます。中神医院付近には江戸時代、「三度飛脚取次処」がありました。ひと月に



建物が草津市の文化財に指定されている吉川芳樹園

3回、大阪・京・江戸を往復した民間の飛脚「江戸屋」の取次ぎをした「荒物屋九右衛門」の跡で、当時の看板は市立街道交流館に保存されています。

その向かいにある中栄は、旅籠から醤油屋、そして現在の荒物屋へと変遷をたどりました。この辺りの建物が街道に面しながら間口が狭いことに気づかれるでしょうか。これは江戸時代、間口の広さ（3間ごと）に対して課税されていたためです。このため今も街道沿いには間口が狭く奥行き長い家々が残っています。奥に中庭や蔵などを配する京都の町屋を思わせるたたずまいです。

中栄の店の並びにレトロな赤い丸型ポストがあります。見上げると屋根の軒瓦に松の模様が見えます。ここには旅籠「松屋」がありました。松屋だから松の模様です。

井上金物店は屋号を「金茂」といい、数代前

の「金屋茂七」さんは江戸時代、菓子商を営み寺や神社に納めていました。久徳医院のある場所はかつて百三十三銀行が建ち、後に滋賀銀行に変わりました。



た。南歯科の建物があった辺りには宿の役人だった油屋（奥村）孫十郎の住まいがあったといわれています。

今回の街道物語を手に一度歩いてみてください。実は今回、取り上げたスポットは約3kmにおさまっています。さすがに草津のかつてのにぎわいの中心地、皆さんにお伝えしたいことが満載で誌面がなくなりました。石田さんの案内で聞くものすべてがめずらしく、一歩路地へ入ると小さな発見の連続でした。大きな通りもいけれど、少し小路に入るとどこか懐かしい静けさと、ゆつくりとした時間が迎えてくれます。まだまだ知らない草津がそこにあるので、楽しむことができることがうれしい限り。ぜひ小路を散策してくださいね。というわけで、今回はこの続き。草津宿街道交流館から物語がスタートします。

## 俳句散歩

## 夏

東日本大震災以降、節電のためクーラーの使用も遠慮気味です。被災地ではクーラーの無い避難所も沢山あると報道されています。今回は、蕪村の夏の句を読んで、ひと時暑さを凌ぎましょう。（橋詰辰夫）

## 百姓の

生きてはたらく

あつさ  
暑かな

与謝蕪村

蕪村が知人宛の手紙に添えた俳句で、日付は6月21日、今で言えば7月半ば過ぎで、一年で最も暑い頃です。当時でも一般の人は暑くて働く意欲をそがれ、うんざりしている中、百姓は元気に、暑さ厳しい昼口中、手甲脚絆に菅笠を被り、田の草をとったり、夏野菜の世話をしたり汗を流して働いています。

それを見て、蕪村は、自分はぐったりして死んだようになっていなのに、百姓たちは生き生きと仕事をしている、何と健全なことがと驚き恐れ入っています。

ここで、「生きて」とわざわざカタカナで書いているのは、「生まれて」ではなく、「生きて」仕事をしている様子を強調したかったのでしょうか。現代でも、夏の農作業は過酷です。

お百姓さんの労苦に感謝しながら、「ご飯や野菜をいただきますよ。」



## 涼しさや

鐘をはなる、

かねの声

与謝蕪村

お寺でお坊さんが、朝のお勤めに鐘を力いっぱい撞いて、低い大きな音がゴーンと鳴る。最初の重低音は段々と遠くに広がっていきませんが、鐘はまだウーンウーンウーンといつ終わるのかと思わせるほどに長く余韻を響かせています。鐘の音はゆつくりと鐘を離れて、また元の静寂に戻ります。清々しい朝のひと時のドラマです。

私も暑さ厳しい6月末に山歩きで訪れた京都の槇尾の名刹、西明寺で鐘楼の鐘を力いっぱい撞きました。この句のように涼しい中ではなく、猛暑の白昼でしたが、鐘の音と共に暑さも疲れも身体から離れ一時の清涼感を味わいました。皆さんも試みては如何でしょうか。しかし、許可を得た上で、撞くのは一度だけにして、お寺や参拝者の迷惑にならないようにしましょう。





## 第3回 わが町の自主防災隊 ～地域の連帯感を生む 仕掛けづくり～

今回は、私が住んでいるグリーンハイツ北町の自主防災隊を紹介します。約200世帯、一戸建ての新興住宅街として開発され30年が経過しました。今、元気なシルバーエイジの多いまちです。

自主防災隊が立ち上がったのは平成17年、私が町会長のときでした。前年度から熱心に検討されてきた背景があって、まさに「継続は力なり」を実感したものです。

初代隊長のYoさんの献身的な努力が今日の基盤となっています。隊員は約70名、情報連絡、消火、救出救護、避難誘導、給食給水の5班からなり、隔月で幹事会が開かれます。また資機材の購入は町内会の補助金と市の助成金で行われています。町名入りの赤い消火バケツを戸別に順次配布し今年中に全戸に達する予定です。これは地域の連帯感や防災意識に大きな成果をもたらす役者だと、私は今も思っています。家庭用火災警報器や消火器も隊で斡旋し一括購入したので早く安く普及できました。

特記したいのは、秋の恒例行事として定着してきた「防災フェスティバル」。第4回を数える昨年も実に多くの住民が集まってくれました。内容もバケツリレー、消火訓練、大声コンテスト、防災クイズなど実に豊富です。以前には煙中体験や簡易担架づくり、防災グッズや消防車・救急車の展示、警察に協力いただいた振り込め詐欺の寸劇などもありました。

また非常食のおにぎりや豚汁、網焼きなどに加えて、「非常食の祭典」と銘打って、身近に手に入る山野草の天ぷら、木の実、ヒシの実、湖産魚まで出て大賑わいでした。町内の多くの方が集まって共に食



笑顔広がる防災フェスティバル

べ、笑い、語り合う一日を満喫。食材の調達や当日の料理番をはじめ、できる人ができることをする参加型イベントに意味があるのだと思います。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識が生まれることで、自分のやれること、皆でやるべきことも見えてきます。互いに助け合える連帯感を高めるには、こうして平素からの出会い、互いの顔を知り合える機会づくりこそ大切なんだと思います。数年前に隊で各戸の家族人数や緊急時の連絡先、要援護者の登録などをお願いすると、ほとんどの家から提出されました。これだけでも地域ぐるみで防災意識を高めていくのに十分な役割を示したと思います。市で昨年からとりかかった災害時要援護者支援制度を有機的で効率的なものにするには、この自主防災隊との連携が必要だと感じています。

緊急連絡網も数年前にでき訓練も何度か実施。昨年は電話と戸別訪問による口頭連絡を組み合わせ、昼夜の違いなんかも確認しました。これも緊急時に互いに協力し合うための大切な訓練だと思っています。市や湖南広域消防局設立40周年記念式典で表彰されたことも嬉しく励みとなっています。

高齢化が進んでいます。体力的に援助を必要とされる方も年を追う毎に増えるでしょう。火の不始末による失火だって怖い。大規模災害だけを想定するのではなく自助の徹底を啓発しながら、地域ぐるみの助け合い（共助）の基盤を固める仕掛けづくりが大切なんだと思う今日この頃。

コミュニティくさつはHPでもご覧になれます。

非常食の祭典では美味しい道草が…



熊谷栄三郎の  
**徒然草津**  
つれづれくさつ

第4回

農業はどこでするもの？

熊谷栄三郎



先頃の新聞に「滋賀県内のサルの群れは全国で2番目の多さ」という調査結果が出ていた。野菜はもちろん、ビニールハウスのイチゴまで食い荒らされるといふ県内農家の悲鳴もあわせて載っていた。

二十七年前、湖北の高月町の菜園にユーモラスな立て札があったのを思い出す。「お猿さんにお願ひします。種ナスビです」とあった。獣たちによる被害は、まだ少しはゆとりある雰囲気でお処される時代だった。

今は違う。サル、シカ、イノシシなどの侵入を防ごうと、畑も水田もネットで囲まれている。遠い山村にみならず、栗東や草津の山手だって例外ではない。ネット、ネット、ネット。なるほど日本はネット社会だ。

昨年、京滋県境の畑で聞いた農家のおばあさんの言葉も忘れられない。「ネットくらいでは獣は防げへんえ。結局、なに作つても獣の餌。あんな、今どき、百姓は都会でするもんやで」。おばあさんは、シカにかみ切られたネットを修繕しながら言うのだった。

そうか、草津の街中は獣がいないか

ら菜園作りが盛んなんか。私は知人らが定年後、せっせと野菜作りを楽しんでいる姿を思い浮かべた。が、散歩がてらあちこちの菜園で聞いてみると、ちと事情が違った。なんと獣がいないのに、作物がなくなるという。例えば昨年スズキさんは、収穫適期のタマネギを十数個畑で紛失した。イマイさんなど、サツマイモを二つね分もやられた。蔓だけがなにくわめ様子で、ちゃんとうねに置かれていたので被害にしばらく気づかなかった。獣はそんなことはしない。他にもトマト、カボチャなど被害にあった人の話はいくつでも聞けた。サテ、農業はどこでするもんかいな。



絵と字

中村明雄

大自然の中で  
私たちは  
育つて来た。

## 編集後記

▼暑くても働けばビールがうまい！（矢原）▼草津に居を構えて35年。取材でたくさんの場所・人に出会えました。これからの展開が楽しみです。（大條）▼取材って難しいものですね。皆さんが聞きたいこととは？役立つ情報とは何か？考えさせられました。ありがとうございます。（大石）▼まち歩き参加にて草津の魅力再々発見。後日、嬉々として同じ道を歩いて路地が見つからなくて愕然。草津宿場まち恐るべし！（大村）▼「なでしこ」やりましたね、3時半に起きTVを見てこのオジイも興奮しました、ハイ。（橋詰）▼今年は毎日のように「節電」を耳に目にします。節電の夏を乗り切るレシピまでさまざまな情報があります。我が家は風呂の残り湯をトイレに使う・扇風機と保冷剤で睡眠など、まずは少しの工夫と家族の協力から。（荒川）▼さあ夏休み。子どもたちは長い休みを満喫しながらも、たくさんの宿題と悪戦苦闘。読書感想文に自由研究…子どものときにはあんなに嫌だったのに、親になると「あれしたら、これ読んだら…」とおせっかいばかり。「父ちゃんが子どもの時はどうやったん？」の思わぬ反撃に「ん？」無言（茶木）

## 東日本大震災・被災地支援

### カムバックサーモンプロジェクト！

NPO法人しがNPOセンターでは、東日本大震災による被災地の一つである岩手県大槌町まで滋賀からボランティアバスを毎月運行し、現地に於て進められている「鮭プロジェクト」に協力しています。ボランティア参加者とバス運行のための寄付を募集しています。

詳しくは下のHPをご覧ください。

HP <http://shiga-npo.la.cooocan.jp/>

## 市民編集ボランティア募集！

コミュニティくさつ編集部

（公財）草津市コミュニティ事業団内

〒525-0037

滋賀県草津市西大路町9-6（まちづくりセンター内）

電話 (077) 565-0477

ファックス (077) 562-9340

メール com-com@mx.biwa.ne.jp

URL <http://www.kusatsu.or.jp/>



再生紙使用

～地球にやさしいまちづくり～